

《第五報》

セーブ・ザ・チルドレン ハイチ地震緊急支援活動

**移動クリニック開始！1日100名を治療
今後優先すべきは子どもの保護**

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子ども支援の国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン (SC) は、被害の拡大と悪化を受け、現在 60 万人に支援を届けることを目指して活動を行っています。今回の地震で、人生においてめったに経験しないほどの体験をしたハイチの多くの子どもたちが、1日も早く、子どもらしく生きられるための支援を最優先に展開していきます。

SC は、緊急物資の支援に加え、被害が大きく、医療設備も医師も不足している首都ポルトープランス郊外の町レオガンに移動クリニックを開設、アメリカから 14 人の医師を派遣し、1 日およそ 100 名の患者を手当てしています。また、本日より、ポルトープランスにおいて、水と衛生についての訓練を受けた 24 名のスタッフが、被災者の集まる居留地で仮設トイレと給水所を設置します。トイレを設置することは、水の汚染を防ぎ、保健衛生の観点からも急務です。

【子どもたちに学校を！】

「地震が起こったときは、本当に怖かった。今は、寝るテントもないし、何にもない。服さえないんだ。家に帰りたいけど、家もない。学校にも行けない。僕は学校が大好きなのに」地震で家を失い、野営キャンプで母親と 7 人の兄妹とともに避難生活を送っているアンジェロ (8 歳) をはじめ、地震で家も学校も友だちも失った子どもたちは、1 日も早く学校が再開されることを心待ちにしています。これまで SC が世界中で行ってきた緊急支援活動の経験からも、教育は被災支援活動の要です。学校は子どもたちを身体的侵害、搾取、暴力から保護し、被災後の心の回復を助けます。また、新しい生活を開始する親にとっても助けとなります。

地震発生以来ハイチの学校は閉鎖されており、「完全に崩壊してしまったハイチの教育システムには長期的支援が必要だ」とハイチの教育省は訴えています。教育支援は、SC のハイチ 5 年復興支援の最初の一步です。

こうした状況のなかで、SC はポルトープランスの仮設避難場所にチャイルド・フレンドリー・スペース (CFS) には、現在 147 名の子どもが登録されています。今後 4 つの CFS を増設し、さらに多くの子どもたちを受け入れる予定です。CFS は、避難場所やキャンプで暮らす子どもたちを保護し、安心して遊べる場所を提供すると同時に、震災で受けた心の傷をケアする場所でもあります。

また、こうした大災害の際に最も懸念されるのは、子どもが家族と離れ離れになったり、親をなくすことです。今後 SC は、親や家族と離れ離れになった子どもの再会支援プロジェクトを本格始動します。本プロジェクトは、時間をかけて慎重に実施する予定です。多くの子どもたちにとって、生まれた国で回りの人々に守られ、育てられることが最良です。SC は、子どもたちにとって最適な環境を提供することを目指して活動を展開していきます。

SC の開設した CFS のテントに集まる子どもたち



Antonio Bolfo/ Getty for Save the Children.

■セーブ・ザ・チルドレン

1919 年に設立した子ども支援 NGO。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会 (UN ECOSOC) の NGO 最高資格である総合諮問資格 (General Consultative Status) を取得しています。年間予算は 1,000 億円を超え、現在、世界で 29 カ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120 カ国以上で活動を展開しています。90 年渡る活動は、世界の NGO の代表格として各国政府からもその重要性を認められています。